

まちづくり懇談会議事録

日 時：平成 30 年 11 月 8 日（木） 18：27～20：41

場 所：農村環境改善センター

出席者：9 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※資料確認
3. 説明事項
(1) 栗山町第 6 次総合計画後期実施計画策定について（資料①・②）
※質疑応答
4. 懇談
(1) 栗山町が直面する主な課題について（資料③）
※質疑応答
5. 閉会

《懇談会内容》

要望：角田団地では、消防車や救急車のために団地と団地の間の除雪を行っており、団地住居者で各 16,000 円を負担し、業者に除雪を依頼している。役場に除雪ができないか確認したが、予算がないため除雪できないとの回答があった。来年度以降、予算編成の際に検討していただきたい。

建設課：団地の除雪は、不特定多数が利用する大きな道路は町で行っているが、通路などは個人で除雪対応していただいている。除雪方法は、町で指示は行っておらず各々の判断に任せている。

町長：限られた財源の中で除雪を行っており、現在各個人の除雪に対応する考えはない。

意見：公約 5 つの旗印で「子どもたちの夢・希望が広がるまち」が黒塗りになっているが、「長寿社会の実現」もぜひ力を入れて取り組んでほしい。

町長：白黒印刷のため強調されているように見えるが、実際のカラーではそれぞれ別の色が入っている。子どもたちの教育や福祉の政策に力を入れて取り組む説明はしたが、高齢者を対象とした政策を疎かにするものではなく、バランスを図りながら政策を実施していく。

意見：栗山高校はなくさないでほしい。町民に栗山高校の存続の必要性を働きかけていくことが必要に思う。

教育長：栗山高校の魅力づくりのため、今年度より検討委員会を立ち上げて協議している。今後、情報発信を含め実施していく。

質疑：他の町では、コミュニティスクールの運営に関わる保護者が学校の運営や人事にまで介入するケースがあると聞いた。

教育長：本町のコミュニティスクールでは、地域が密着したより良い学校づくりのために保護者も参加し、さまざまな意見をいただいている。人事に介入するような実態はない。

意見：台風、地震で農業被害、倒木被害が多かった。防災マニュアルを整備し、町民に配布してもらいたい。また、岩見沢市ではFMラジオを利用して災害情報を発信していると聞いた。避難所の開設を行っていたが、避難が困難な方の対応を町内会・自治会が行う必要がある。

町長：災害対応のマニュアル化は今後必要だと感じている。本町も、コミュニティFMラジオ局の開設を計画しており、開設に向けた検討を行っている。

質疑：ものづくりDIY工房とはどういった事業なのか。必要性はあるのか。

副町長：レーザープリンターや3Dプリンターを導入し、クリエイターを町内に呼び込む。クリエイターと町内事業者の連携により産業の発展を図っていく。9月に地震の影響により、見学会が延期となっているが、今後、あらためて実施を予定しているので、その際にはぜひご覧いただきたい。

意見：町内に病院は必要だと感じており、日赤の存続を望む。

提言：介護福祉学校生の減少の件で、就労後の介護士の給与の改善などを検討していただきたい。

意見：リフトを廃止しても、栗山町スキー場は残してほしい。圧雪さえ実施すれば子どもたちが自分で登って利用できるのではないかな。

教育長：スキー場の利用は、コースの横が崖になっていることもあるため、リフトの有無に関わらず安全対策として人員の配置が必要になる。それを踏まえ、スキー場の存続は検討していく。

質疑：新聞で台風被害による賠償を町が行う記事を見たが、台風被害では賠償義務が生じないと理解している。今回、賠償請求に応じたのはなぜか。また、今回のケースのように1件賠償を行うと次々と似たようなケースが増えるのではないかな。

町長：今回損害を与えた倒木は町で管理を行っているものである。今回のケースは、弁護士とも相談した結果、行政の瑕疵によるものであり160万円の賠償を行うこととなった。今後も同様の賠償請求があった場合には、ケースごとに対応していく。

質疑：雇用促進住宅の話聞いたが、動きはあるのか。

若者定住推進課長：行政で行っているものではないため、入ってきている情報の提供という形にはなるが、町内に2カ所ある旧雇用促進住宅は民間企業のビレッジハウスが管理しており、現在は錦地区で賃貸の動きがあると聞いている。